

外部専門家・自立活動連携相談について

自立活動係では、職員の専門性や指導力向上のために、外部専門家の先生をお呼びしております。今年度も4名の先生に来校していただき、連携・相談を行いました。

○理学療法士 (PT)

○言語聴覚士 (ST)

○作業療法士 (OT)

○作業療法士 (心理士)

※作業療法士の先生には、心理面においてもカバーしていただける研修を行っております。

外部専門家の先生方とは、自立活動の指導を充実させるために、困難さの背景要因を探る視点で連携・相談を行っており、直接的な指導の改善を図るための話し合いなども行っております。

今回は、作業療法士 (OT) との相談について報告させていただきます。

【作業療法士 (OT)】

作業療法士 (OT) は、その人らしい将来の生活をイメージして指導を行う専門家です。感覚・知覚、精神面、認知面での評価や食事、トイレなどの日常生活で必要となる活動を応用していく力、地域社会へ適応していく力に視点をしています。

今回は、学校生活上で育むことができる体の固有感覚を刺激する活動や心理面のサポートについての指導方法についてご指導いただきました。

【固有感覚】

筋肉や関節を動かすときに感じる感覚のことで、運動を調整、身体図式の把握、情緒の安定などの役割があります。

【心理面でのサポートについて】

不安感を示したときの対応について、ご指導いただきました。

本人が活動内容を決定したり、本人と相談しながら、できる活動内容にチャレンジしたり、本人の意思を大切にしながら活動を行うと良いとアドバイスいただきました。その結果、心理的にプレッシャーのかかる場面でも「難しい」「できない」といった発言が減り、自分から「今日は観る」「最後にやる」など積極的な姿がみられました。



【固有感覚を刺激する活動について】

身体の動き (ボールを蹴る際の重心の乗せ方や足の角度などの習得) についてご指導いただきました。

今回は、ボールをインサイドキック (足の内側) で蹴る動きを行いました。インサイドキックは、重心の乗せ方が難しくなるため、消極的になりやすい活動でした。そういった場合には、補助の仕方を工夫すると良いとのことでした。以下の①～③までの手順で補助をすると良いとのことでした。

- ①両方の肩を持ち支える。
- ②両手を持ち支える。
- ③片方の手のみを支える。